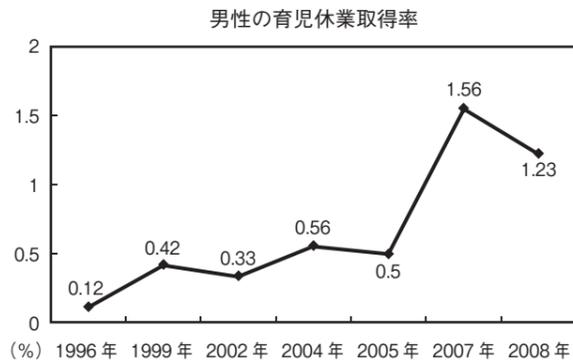


■男性の育児休業取得率の推移

男性の育児休業取得率は1.23%です。女性の取得率は90.6%と年々上昇していますが、男性は依然低水準となっています。

男性の育児休業取得率 **1.23%**

出産者のうち、調査時点までに育児休業を開始した者の数
 育児休業取得率 = $\frac{\text{出産者のうち、調査時点までに育児休業を開始した者の数}}{\text{調査前年度1年間の出産者の数}}$



資料：厚生労働省「平成20年度雇用均等基本調査」

イクメン、キクメンのすすめ

育児に積極的に参加し、楽しむ男性“イクメン”が増えています。男性用の抱っこひもやスリングなども普及して、公園で子どもを遊ばせる男性の姿も自然体で、ほっと笑みが浮かんできそうです。

出産前の母親教室はプレママ・プレパパの両親学級に広がり、夫婦で参加する姿も珍しくありません。子育ての楽しさを話す男性芸人の出演や育児番組も目にとまります。行政の施策や企業の中でも、このイクメンを応援する動きは広がってきています。かつてのイクメン、現在進行形のイクメン体験を集めてみました。皆さんはどんなイクメン体験をお持ちですか。

イクメン体験談

- ◎20代 お風呂係り。飲み会の日も、一旦帰宅してお風呂に入れてから参加している。
- ◎40代 3人目で初めて出産に立ちあい、子どもへの愛情が格別のものになった。上の子どもたちが「パパあー」と慕ってくれるのがとても嬉しい。育児にかかわることが楽しくなった。
- ◎30代 子どもとかかわる全てが楽しい。時間があればもっとかかわっていききたい。
- ◎50代 入浴はパパのお仕事。湯船の中で幸せそうな表情を見せてくれたときは最高。僕だけに見せてくれる表情は僕の宝物。
- ◎20代 保育所の送り迎えは僕の仕事。お休みの日はずっと抱っこしています。
- ◎30代 ベビースリング（アイテムがカッコよかったので）で出かけるのが楽しみ。
- ◎20代 はじめてしゃべってくれたのは『ママ』より『パパ』だった。
- ◎40代 朝に弱い娘をくすぐったり、ちょっと工夫すると、笑顔で起きる。大変だけど、楽しい。
- ◎40代 あっちへ行ったりこっちへ行ったり、予想不可能な動きをして面白い。可愛くて仕方ない。

夫にしてもらってうれしかったこと

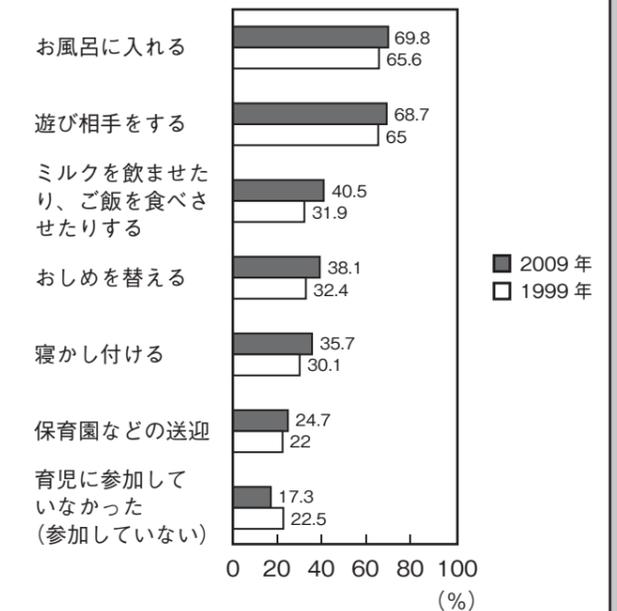
- 40代 公園に連れて行ってくれたこと。自分一人になれる時間ができた。
- 50代 早く帰れた時はお風呂にいれてくれた。
- 50代 私が美容院に行く時は子どもとお留守番してくれた。
- 50代 休日に実家へ子どもを連れて行って、私はつかの間の休息をとることができた。
- 30代 夜泣きで疲れて寝入っている私にかわり、起きて面倒を見る。
- 40代 一緒に過ごしている父子の姿。公園に連れて行ったり、幼稚園の送迎をしたり、お兄ちゃんの服を選ぶのに意見を聞いたことかな。
- 40代 病院への付き添い。夜中一緒に起きて、子どもを毛布にくるんで、力のある夫がいてホントによかった！
- 30代 帰宅して子どもに声をかけて抱っこしてくれるだけでも助かる。
- 40代 子守をひきうけてくれて、一人で外出。とても気が楽になる。
- 30代 病気の時、夫が夜中しゅう一緒に抱っこや水分補給をしてくれた。
- 30代 写真、ビデオ撮影の整理。写しっぱなしになりがちな記録がすつきり。パソコンの画面に子どもの画像を貼って一緒に楽しめた。
- 30代 上の子どもたちを見てくれるようになった。塾に連れて行く、宿題を見る、お風呂に入れる。
- 40代 「お疲れ様」とか「大変だね」と、声をかけてもらったこと。



妻から《ちょっと迷惑だった？》一言

- ☆50代 哺乳ビンの洗浄が雑。
- ☆40代 遊びに力が入りすぎ、子どもは怖がって泣き出した。
- ☆40代 洗い物や掃除がやたらと丁寧。いつ終わるんでしょう？
- ☆20代 看病してくれたときの買い物。値段の高さにええっ？

■父親の育児参加状況



資料：時事通信社「父親の参加に関する世論調査」2009年

おむつ替え、ミルク作り、寝かせ付けなどを普通にこなす男性たち。育児に積極的にかかわる男性が増える一方、実際は仕事に追われ、子どもとの時間が持てない状況が多いのも事実です。慣れていないのに急に乳児を手渡されても戸惑うのは当然。我が子の成長著しい姿にどう接していいのかわからなくなるかもしれません。

時事通信社が10年継続して行っている「父親の育児参加に関する世論調査」結果からも「お風呂に入れる」や「遊び相手をする」が育児参加の上位にあがっています。産後の母体保護も考慮して、「パパとお風呂」を習慣化すると子どもとの最高のコミュニケーションの場になるかもしれません。核家族や働く女性が増えるなか、男性の育児参加は必要不可欠であり、少子化防止の鍵とも言われています。

また、子育てに追われる母親にとって、大人との会話が少ないのが悩みの種。イクメンあるいは、イクメンになりたいパパ、ママの話聞く「キクメン」になってみませんか？育児の時間は短くても子育ての責任は対等です。ママの話聞くことで我が子の成長の喜びに共感したり、ママの悩みを知っておくことは、子どもに対等に関わっていく方法のひとつです。「赤ちゃん散歩」「予防接種に同行」など育児参加の手始めはなんでも構いません。子育てが大変だと思われがち乳幼児期に、夫婦で子育てを楽しんだり、親しんだ経験は親子ともに貴重な時間となるでしょう。